

式 辞

札幌医科大学は本日、昭和二十五年に創設されて以来、開学六十周年、さらには、前身の北海道立女子医学専門学校の創立から創基六十五周年を迎えることとなりました。

ここに、日頃からご支援をいただいておりますご来賓各位のご臨席を賜り、本学教職員、学生とともに「札幌医科大学開学六十周年、創基六十五周年記念式典」を挙行できますことは、大学にとって、大きな喜びでございます。たいへんご多忙の折、ご列席くださいました皆様に、大学を代表し心からお礼を申し上げます。

また、六十年にわたる札幌医科大学の歩みの中で、今日の大学の礎を築いてこられました故大野精七名誉学長をはじめ、物故者の方々のご貢献に対しまして心から感謝し、ここに謹んで追悼の意を表します。

顧みますと、札幌医科大学は、昭和二十年に創立された道立女子医学専門学校を母体に、戦後の学校教育法の大改革により設置された新制医科大学の第一号として創設されました。

開学当初は、医学部だけの単科大学として発足しましたが、平成五年四月に札幌医科大学衛生短期大学部を母体に、看護・理学療法・作業療法の三学科からなる保健医療学部を開設しました。

これにより現在は、医科系総合大学として、両学部学生、大学院生合わせて約一千五百名、教職員約一千五百名を擁する大学に発展してまいりました。

また、本学は「進取の精神と自由闊達な気風」、「医学・医療の攻究と地域医療への貢献」という建学の精神の下、自主・自律的な大学運営を行い、札幌医科大学が道民の健康増進に貢献することで、道民の誇りとなる大学であり続けることをめざし、平成十九年に北海道公立大学法人札幌医科大学として、新たな出発をいたしました。更に、平成二十年十月には、人間性豊かな医療人の育成に向けて、医療人育成センターを開設いたしました。

この間、医学部卒業生は約四千九百名、保健医療学部卒業生は衛生短期大学時代の卒業生を加えますと約二千四百名となり、約七千余名の有為な人材を輩出してまいりました。卒業生は医療現場あるいは、医学・医療研究の第一線で活躍するとともに、多くの方が北海道内各地で、地域の医療、保健、福祉の各分野の向上のために大きく貢献をしております。また、教育、研究者としても国内外のそれぞれの領域でご活躍され、各界から高い評価を得てまいりました。

開学六十周年、創基六十五周年を迎え、これまでの歴史を築いてこられた教職員、同窓生そして関係の皆様のご努力とご貢献、そして、これまで支えていただきました道民の皆様に心より感謝を申し上げます。

北海道は、他の都府県とは歴史も風土も環境も大きく異なります。特に本道の特徴であります広大な面積を有することは、優れた環境を与えてくれる反面、地域医療の面では厳しい状況にたたされやすくなります。十年前の五十周年記念の時と大きく異なる点としては、地域医療が非常に厳しくなっていることが挙げられます。医師不足は全国的な問題になっておりますが、過疎地域を多く抱える北海道ではより如実に現れており、札幌医科大学が本道の医療、保健、福祉をしっかりと担っていくという高い目的意識を持つことが必要であると認識しております。

長い歴史の中で本学の研究は多くのパイオニア的実績を残してきており、全国的にも非常に高いレベルを保ってきました。北海道に根を下ろした地域医療の実践と、国際的にも高く評価される高レベルの基礎、臨床研究は本学の誇りとするところでございます。

開学六十周年、創基六十五周年を契機といたしまして、本学は、北海道民の大学としてこれまで以上に教育、研究、臨床の充実を図り「最高レベルの医科大学」を目指すとともに、更なる地域医療への貢献に努めて参る決意でございます。

終わりに、本日ご臨席いただきましたご来賓の皆様をはじめ、ご参列の皆様にご改めてお礼を申し上げます。今後とも、札幌医科大学に対する一層のご理解とご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、ご参会の皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたしまして、式辞といたします。

平成二十二年六月二十五日

北海道公立大学法人札幌医科大学

理事長・学長 島本和明